

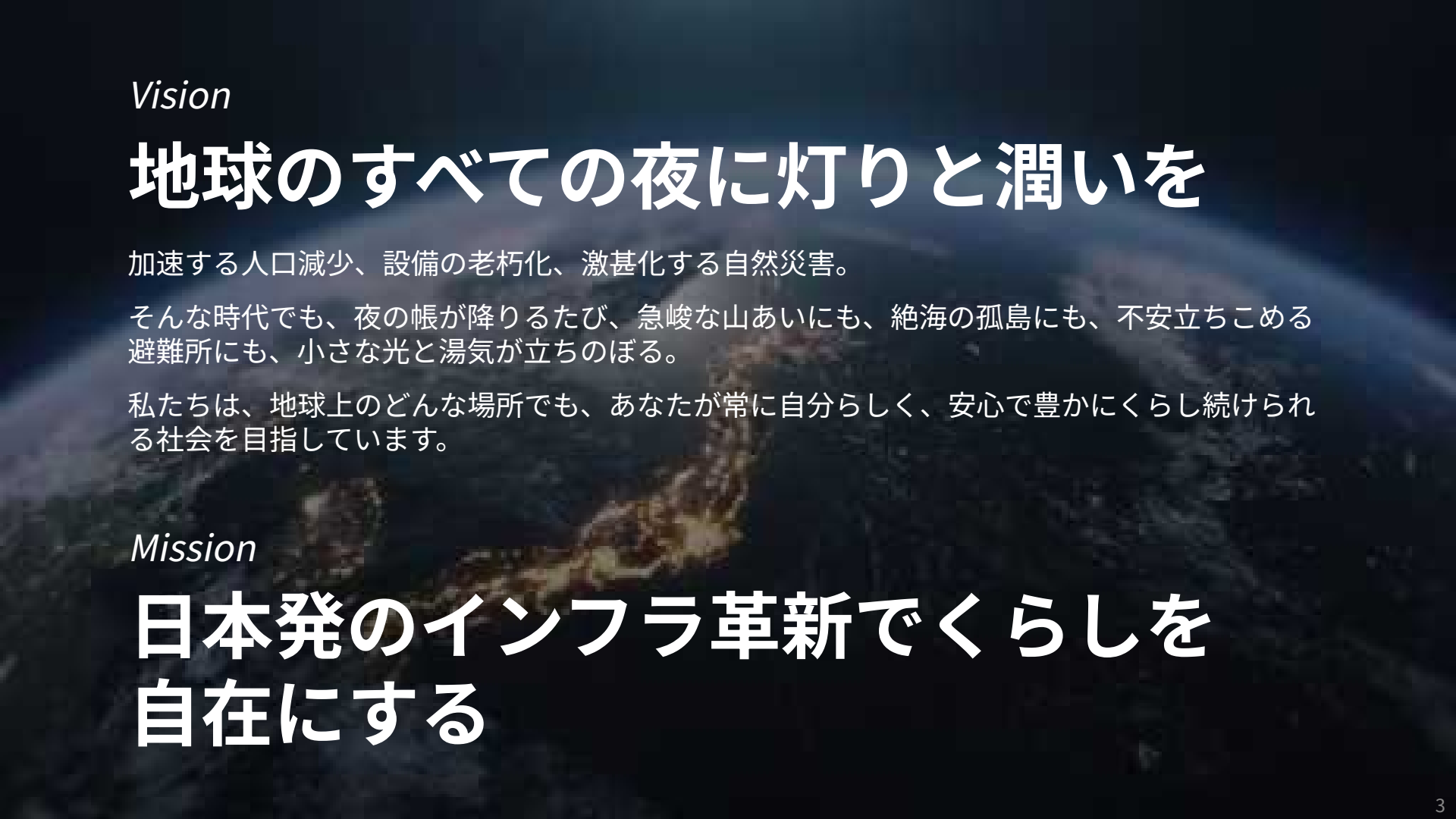
地球のすべての夜に灯りと潤いを

INNFRA

インフラ

会社概要

会社名	<u>INNFR 株式会社</u>
英文名	INNFR Corporation
所在地	山梨県甲府市丸の内2-2-1 CROSS500 1F
設立年月日	2023年10月10日
役員	代表取締役 川島壮史
資本金	600万円
事業内容	インフラに関するコンサルティング、企画、調査研究 インフラ設備の設計、製作、販売、管理、運営、保守 住居、宿泊施設、温浴施設、商業施設等の設計、開発、運営 各種イベントの企画、運営 国や自治体の防災業務
事業所等	オフグリッド・リビングラボ八ヶ岳（山梨県北杜市大泉町谷戸5460）
決算期	9月



Vision

地球のすべての夜に灯りと潤いを

加速する人口減少、設備の老朽化、激甚化する自然災害。

そんな時代でも、夜の帳が降りるたび、急峻な山あいにも、絶海の孤島にも、不安立ちこめる避難所にも、小さな光と湯気が立ちのぼる。

私たちは、地球上のどんな場所でも、あなたが常に自分らしく、安心して豊かに暮らし続けられる社会を目指しています。

Mission

日本発のインフラ革新で暮らしを 自在にする

自己紹介



代表取締役 川島 壮史

- 1980.7.26生まれ（45歳）
- 栃木県宇都宮市出身
- 東京都港区在住
- 妻、娘1人の3人家族
- 東京大学大学院理学系研究科修了
- 趣味はプロバスケットボール観戦（Bリーグ宇都宮ブレックス）、音楽鑑賞、アニメ鑑賞、岡本太郎、お酒

期間	所属	概要
-2007	 東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO	理学系研究科地球惑星科学専攻にて宇宙プラズマの研究に従事。テーマは地球磁気圏近傍のプラズマ物理現象で、JAXAの宇宙科学研究所にも席を置き、人工衛星の運用をしながら観測データの解析を行った
2007-2014	 accenture (外資系戦略コンサルティング)	戦略グループに新卒入社。主に電力・ガス会社向けの経営コンサルに従事。特に震災以降は業界構造改革、大手電力会社の事業構造改革、電力自由化に伴う新規参入戦略、太陽光発電・蓄電池等の市場拡大に向けたエネルギー関連の新規事業戦略のプロジェクトなどを数多く手掛ける
2014-2016	TOSHIBA (総合電機メーカー)	太陽光発電システム推進部にて、FITバブル以降を見据えたエネルギー関連の新規事業開発に従事。不適切会計事件の渦中にも継続してプロジェクトを推進、役員説明を突破して新規事業のローンチを経験
2016-2020	 ReDucate (EdTechスタートアップ)	COOとして経営に従事。2017年には楽天グループの連結子会社となったが、その後も親会社連携を含む事業戦略の立案からバックオフィス全般までを担当。業績不振から複数回のリストラの後、会社清算を経験
2020-2023	 U3 Innovations (環境エネルギースタートアップ)	代表である研究者の竹内純子氏等の誘いにより入社。CIC Tokyoと共同でのスタートアップコミュニティ立ち上げ、VCファンド設立を経験。2021年よりオフグリッド社会実験プロジェクトを責任者として遂行
2023-	INNFR	上記プロジェクトの一切を引き継ぐ形でスピナウトして起業。2023年10月にINNFR株式会社を設立（※U3イノベーションズとの資本関係はなし）して代表に就任

本日のアジェンダ

1. 背景となる社会課題
2. 社会課題解決のアプローチ
3. 社会実装プロジェクト事例
4. CNに向けたこれからの戦略

背景となる社会課題

インフラアクセスに関する社会課題

人口減少

- 国内の水道事業者の6割が赤字
- 法定耐用年数40年を超えている老朽化した水道配管は全体の20%以上に達する
- 老朽化対策と耐震化に今後30年で約33兆円の投資が必要

自然災害

- 能登半島地震では6県で最大13.6万戸の断水が発生
- 土砂崩れなどで復旧作業は難航し、解消までに最大5ヶ月がかかるなど断水が長期化した
- 避難所等では、衛生状態が維持できず感染性胃腸炎の発生が複数報告された

1997-2017の20年間で

約41兆円の経済損失

が自然災害により発生

大雨や短時間豪雨の発生回数

1976-1985年 → 2010-2019年で **約1.4倍**

土砂災害の発生回数

1990-1999年 → 2010-2019年で **約1.5倍**



令和6年 能登半島地震

停電 最大4万戸

断水 最大13.6万戸

An aerial photograph showing a city and surrounding areas completely inundated with floodwater. A major river flows through the center, with several highways and roads visible, some partially submerged. The background shows hazy mountains under a grey sky.

令和元年 台風19号

停電 最大 52万戸

断水 最大 16.8万戸

国土交通省の防災関連予算は**3兆円**以上

防災・安全交付金 1兆405億円

流域治水の加速化・深化 8,311億円

南海トラフ巨大地震・首都直下地震対策 2,771億円

持続可能なインフラメンテナンス 9,327億円

被災者が安心して過ごせる避難生活環境の整備や
発災後速やかにトイレやキッチンカーなどを配備
できる官民連携体制の構築

地方においては
発災後の対応には限界
自立的な備えが重要



社会課題解決のアプローチ

いまの技術で「ここまで」できる。

電気と水の自給自足

「オフグリッド・リビングラボハヶ岳」で考える



複数拠点でのべ3年以上
実生活体験に基づく実証実験

独自技術として特許出願済み
水循環システムの開発に成功

インフラゼロハウス開発者に聞きました

電気や水のない場所(インフラゼロ)で 本当に暮らせますか？



INNFR × 無印良品の家

インフラゼロハウス 実証実験 参加者募集



無印良品の家



Forbes
Xtrepreneur
AWARD
2025



Forbes
Xtrepreneur
AWARD
2025



Forbes
Xtrepreneur
AWARD
2025



社会実装プロジェクト事例



コンテナ型インフラユニット

INN FRA Base

標準規格コンテナ型
簡単設置・移動可能

マルチユーティリティ化
電気・水を一体供給

100人規模まで対応
カスタマイズ自由

IoT遠隔監視システム
災害時も安心運用

2025年度より国土交通省として 道の駅 x コンテナ の導入を支援



「道の駅」における高付加価値コンテナ
活用ガイドライン

令和6年4月
国土交通省 道路局



出典：時事通信 令和7年2月8日



出典：新建ハウジング 令和6年1月18日

山梨は、
挑戦と近い。
未来と近い。

社会実装 サポート事業

TRY! YAMANASHI!



An aerial photograph of a city, likely Fukushima, showing a large-scale construction project for a disaster relief station. The station features a large, curved, multi-lane road and a large parking area with several white trucks. The text "県内の防災道の駅へのプロトタイプ実装" is overlaid on the image.

県内の防災道の駅への プロトタイプ実装

本プロジェクトの”3つのチャレンジ”

道の駅
フィールド
への実装

避難生活を
想定した
水供給

平常時利用
による
マネタイズ

フェーズフリーランドリー事業



フェーズフリーランドリー事業

トレーラー型
コインランドリー
に水循環システム
を併設

平常時は店舗営業
しながら災害時
は地域に開放

可搬性を備えて
いるため遠方の
被災地支援も可能

官民連携による事業体制

INN FRA

水循環トレー
ラー開発・運営



**Fuhrmeister
Electronics**

ランドリー
店舗運営



Wash Peaks

災害備蓄型
ランドリー開発



道の駅 富士川

ランドリー
店舗運営支援



富士川町
FUJIKAWA TOWN

道の駅敷地内
土地の貸与



YAMANASHI

各種調整
事業PR支援



2025年12月より営業開始予定
更に来年度を目標に本格的な事業化を計画

沖縄 / 島嶼地域における社会課題

限られた淡水
・エネルギー
資源

全国平均を
超える高い
建築コスト

災害/台風時に
脆弱となる
ライフライン

”フェーズフリー沖縄モデル”のコンセプト

沖縄の強み（魅力ある土地）



X

新しいインフラ



平常時と災害時（フェーズ）の違いなく（フリー）
利用し稼ぐことができる沖縄ならではの滞在拠点を実現

共創自治体：中城村（世界文化遺産 中城城跡）



- 県内のなかで最も人口増加率が高い村（国勢2020）
- 村内に宿泊施設がないなど、エリアとして観光誘客に課題がある（イベント等は定期的を実施）
- 琉球のグスク建築のなかで保存状態が良く最も大きい（高台に位置し、避難拠点としても好立地）

令和7年度 中城城跡フェーズフリー実証事業



①目的（検証項目）

地域観光資源を
活用した平常時
利用の事業性

文化財保護規制下
でのインフラ設備
の設置方法

事業ポテンシャル
に基づく民間資金
の調達可能性



②実施計画

設置・法令対応 (-2025/11)

- 保護規制及び業法に対応した設置計画
- 水循環により大容量の水を使用できる滞在空間（プール、シャワー等）
- 車両を活用した宿泊空間

期間限定営業 (2025/12-2026/01)

- 期間中は一般の来訪者に対して空間を開放
- 週末・夜間などは有償での貸切・イベントによるマネタイズにも挑戦
- 世界遺産認定25周年となる節目のPR施策も計画

検証・計画策定 (-2026/03)

- 実証事業の検証結果取りまとめ（利用者へのアンケート等を実施予定）
- 翌年度からの事業化計画を策定

③今後の展望

令和8年度より中城村とともに
企業版ふるさと納税等による民間資金獲得と
本格的な事業化にチャレンジ

沖縄から国内の島嶼地域
そして、
世界の島嶼地域の社会課題解決へ

地方の経済的負担を軽減、導入を促す事業展開

国の交付金 / 企業版ふるさと納税
による自治体負担軽減

リース等のファイナンススキーム
による支払い平準化

フェーズフリーでの平常時利用
による民間主導での整備

CNに向けたこれからの戦略

福井はまだ自然エネルギーの 伸びしろあり

太陽光



日照条件は不利
だが潜在量あり

水力



急峻な河川多く
落差確保しやすい

風力



日本海側で
一定の風況あり

バイオマス



森林率74%
全国でも高水準

従来の普及ロジックのままでは ポテンシャルを活かせない

FITなど
制度依存

系統で
全量売電

他地域との
開発競争

地域に収益が
還元されない



グリッド接続 ➡ 全量売電

に代わる

オフグリッド ➡ 完全自給自足

というアプローチ

福井の強み

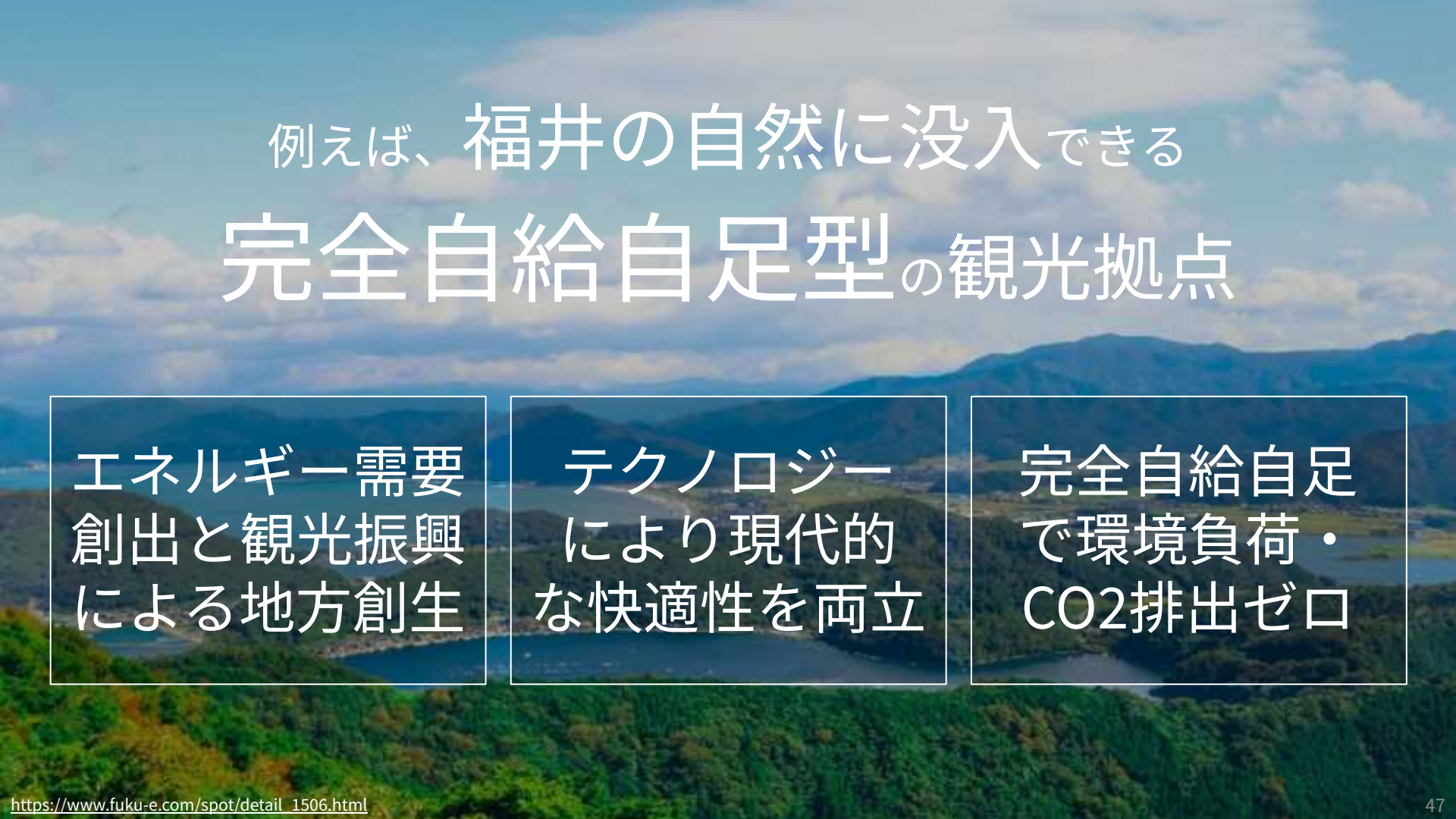
X **INNFR**Aの提供価値

自然資源が豊富
(観光資源/エネルギー資源)

最適なエネルギー
システムの提供

原子力発電所が立地する
日本有数の
エネルギー県

水循環システムに
よる完全自給自足の実現



例えば、福井の自然に没入できる 完全自給自足型の観光拠点

エネルギー需要
創出と観光振興
による地方創生

テクノロジー
により現代的
な快適性を両立

完全自給自足
で環境負荷・
CO2排出ゼロ

新しい地産地消の需要創出によるCN推進
福井の自然が創る”福井の未来”

INN FRA